

北多摩南部保健医療圏における母子保健ネットワークの構築	
北多摩南部保健医療圏	
実施年度	開始 平成22年度、 終了(予定) 平成23年度
背景	<p>母子保健施策については、乳幼児健康診査等を中心とした事業の展開から、近年は児童虐待防止や発達障害児支援、また妊娠期からの精神保健アプローチの必要性など、すべての親子を対象とした育児支援策に活動の重点が移行してきている。</p> <p>さまざまな部署で育児支援の取り組みが進められているが、一方で、関係する機関が拡大していることから、各機関の役割・機能や機関間の連携等については、相互の理解が十分とはいえない状況にある。このため、援助対象者から見ると、これらの取り組みが継続的な支援策となっていない状況も見受けられている。</p> <p>母子保健部門が中心となり、各市の母子保健ネットワークについて、これまでの活動実績を活かした検討等を行い、新たなネットワークを構築していくべき時期を迎えていると考えられる。</p>
目標	母子保健に関わる地域人材の育成と連携の強化を図ることにより、切れ目のないケアネットワークを構築する。
事業内容	<p>地域の母子保健関係者の抱える今日的課題として「発達障害児の地域療育支援」が挙げられることが多くなっている。</p> <p>このため、本事業においては「発達障害児者支援に向けた効果的な母子保健ネットワーク」をテーマとし、管内6市の母子保健主管課へ課題の提案等を行うとともに、保健分野だけでなく、保育所や療育機関等の地域福祉関係者を対象としたシリーズの研修会を開催した(詳細は別紙)。</p>
評価	<p>より実際的な地域支援課題の抽出を目的として、「発達障害児支援」に焦点化して母子保健を考える機会を設定したことにより、現在の親子をとりまく支援の状況や連携の実際等について各機関職員が相互理解をすすめる機会となった。</p> <p>研修会参加者は、当初、病気や障害に対する基本的な知識や対応など、発達障害児支援に関する知識の習得を主な目的として参加していたが、同時に、知識だけでは日常的な支援ニーズに適切に対応できないことも漠然と感じている状況にあった。しかし、本研修会への参加により、多機関職員が情報交換や意見交換等を積み重ねることを通じて、知識等を実際の援助場面で活かすためには、支援機関相互のネットワークによる構造的な連携・支援が必要であることが再認識された。</p> <p>平成23年度は、各市で進められている「発達障害児支援」の実際について、個別の事例をもとに、さまざまな機関の参加による検討をすすめ、効果的な母子保健ネットワークのあり方を考えていく機会としたい。</p>
問い合わせ先	<p>多摩府中保健所 保健対策課 地域保健係 電話 042-362-2334 ファクシミリ 042-360-2144 E-mail S0000348@section.metro.tokyo.jp</p>

別 紙 < 研修会の概要 >

1 テーマ

「発達障害児者支援に向けた効果的な母子保健ネットワークのあり方」

2 対象

市職員（母子保健主管課、障害福祉主管課、児童福祉主管課など）

保育所、幼稚園等職員

療育機関職員 ほか

3 講師

西多摩療育支援センター 医師 吉野 邦夫 氏

4 内容及び参加数

- ・ 3回シリーズ
- ・ 講義、質疑応答、グループワークなど

	実施日	内容	参加数（人）
1	平成22年11月30日	・ 障害特性と支援構造 ・ 早期診断と課題	69
2	平成22年12月22日	・ 気になる段階の支援 ・ 家族支援・関係者支援	78
3	平成23年 1月27日	・ 支援の長期的構造の構築 ・ まとめ	88

5 参加者の意見、感想など（一部抜粋）

- ・ 障害の複雑性や複合性を知ることができ、また様々な分野の方々の意見を聞くことができ、とてもいい時間となりました。
- ・ 園の中でも暴力的でパニックになっている子供がいて戸惑う日々でした。でも、今回勉強したことで、子供に対する思いが違ってきました。子供が、なぜ、そのような行動になるのかをまず自分たちが理解しなくてはいけないと改めて思いました。
- ・ ケースカンファレンスのレベルが高く、大変参考になりました。問題点、具体的な支援まで検討出来て非常に良かったです。事例検討により、研修で学んだ内容を活かすことができ、レベルアップにつながったと思います。
- ・ グループワークは難しかったけれど、支援者としての立ち位置が理解できました。他の支援者との連携についても考えていきたいと思います。
- ・ 保育所を卒園してからの子供の育ちが気になっています。これからは、保育園から小学校、また就労までの支援がステージごとで考えられるようにしていけたらと思いました。

保健所の健康情報センター機能強化事業	
北多摩南部保健医療圏	
実施年度	開始 平成21年度、 終了 平成22年度
背景	<p>多摩地域保健サービス検討会・最終報告（平成15年）では「今後の東京都保健所の機能」の一つとして「健康情報センター機能」が掲げられ、都保健所機能のあり方検討会報告書の中で「企画調整・情報機能、地域診断力の強化・向上とこれを活かした市町村支援の在り方」が主要テーマの一つとして取り上げられている。</p> <p>当圏域では、平成18年度から20年度まで実施した「保健所における健康づくり推進事業」の中で「健康プロフィールシート生活習慣病編」を各市と協働で完成させ、地域診断を継続的に実施する体制を整えたところである。この取組をさらに推進し、「健康プロフィールシート圏域版」の作成及び保健所の情報収集・発信体制の整備を行い、保健所の「健康情報センター機能」を充実強化していく必要がある。</p>
目標	<p>【全体目標】保健所の情報機能（情報収集・発信体制）の充実強化及び圏域各市の地域診断力の向上・生活習慣病等をはじめとする健康指標に基づく各市の最新データや情報を圏域版として取りまとめ、その結果を施策に反映できるよう情報発信を行い、各市の地域診断力の強化向上を図る。</p>
事業内容	<p>【平成21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 圏域内6市担当部署からの情報収集・聞き取り調査の実施 ② 「各市健康プロフィールシート」の指標項目の再検討及びデータ更新 ③ 地域診断に関する勉強会の開催 ④ 健康教育・普及啓発用資料の整備及びホームページの充実 <p>【平成22年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「各市健康プロフィールシート」のデータ更新 ② 「圏域版・健康プロフィールシート」の作成 ③ 地域診断に関する勉強会の開催 ④ 健康教育・普及啓発用資料の整備及びホームページの充実
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 本事業の効果として、シートのデータや分析結果を効果的に活用した事業評価や事業展開・改善が行われる等、各市の取組に反映させることにつながった。 2 「各市健康プロフィールシート」は、毎年各市ごとに作成担当者を選任して協働でデータの更新を行い、今後も継続していく方針は圏域内の共通認識となった。「圏域版・健康プロフィールシート」は各市データの圏域集計のほか、自殺統計や母子保健の指標等の項目を追加して新たに作成したが、項目精査や見直しは今後も引き続き行っていく必要がある。 3 勉強会はシートの活用による地域診断と事業評価を併せて考えられるよう、関連事業と連動させて実施したことにより、各市の事業担当者同士が直接情報交換できる場として有用なものとなった。今後も継続して実施できるよう圏域研修等の機会も捉えながら効果的に企画・実施していく。 4 保健所が保有する健康教育・普及啓発用資料を整備し、ホームページへ掲載して活用を円滑にした。 5 これらの成果を今後も圏域研修等でシートの指標項目を精査しながら地域診断・事業評価等に活用し、また、健康教育・普及啓発用資料の広報周知と併せて保健所の健康情報センター機能を充実強化していく必要がある。
問い合わせ先	<p>多摩府中保健所 企画調整課 企画調整係 電 話 042-362-2334 ファクシミリ 042-360-2144 E-mail S0000348@section.metro.tokyo.jp</p>

◀ 事業内容 ▶

◆ 各市と協働作成「健康プロフィールシート生活習慣病編」更新

◇健康プロフィールシートとは

平成 18 年度から 20 年度まで実施した「保健所における健康づくり推進事業」の中で、圏域市と地域診断を継続的に実施する体制を整備するために 20 年度に初年度版を作成した。21 年度には項目を再度見直し、地域診断ツールとして各市と協働でデータを継続的に更新し作成している。

【特徴】

- ・圏域各市毎の地域診断ツールの一つ
- ・既存データから各市の健康状態の概要についての把握を可能とした
- ・生活習慣病対策をはじめとする健康指標データを分かりやすく図表で可視化
- ・エクセル入力表にデータを入力するとシートにグラフが自動的に作成

【効用】

- ・地域診断、事業評価、普及啓発資料等の基礎データとして抽出・加工が可能
- ・職員間の情報共有の促進

【各市担当者】

保健衛生主管課、国保課等の職員（事務、保健師、栄養士等）

～ 市の担当者からの声 ～

- 散在していた各種検診等のデータについて、重要なものが分かる
- 掲載項目の分量が、多すぎず少なすぎずちょうど良い
- 数値の羅列では発見できなかった問題の生じている箇所が判別しやすい
- 見やすいグラフで一覧化されているため、事業全体を俯瞰して把握しやすい

◆ 「圏域版・健康プロフィールシート」作成

平成 22 年度に各種健康指標に基づく各市の最新データや情報を圏域版として取りまとめ、各市データの圏域集計のほか、自殺統計や母子保健の指標等を追加して新たに作成し、各市に配付した。

【シート掲載項目】

- 1 人口に関する指標
総人口数、性別人口、世帯数、人口構成割合、老年人口割合、65 歳健康寿命 A・B
- 2 死亡に関する指標
主要死因別死亡割合（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病）、自殺者数
- 3 がん・生活習慣病に関する項目
がん検診受診率（胃がん、大腸がん、肺がん、子宮がん、乳がん）
特定健診・特定保健指導（受診率、終了者割合、特定健診受診者の喫煙率）
- 4 母子保健に関する指標
出生数、出生率、合計特殊出生率、低出生体重児率、妊娠届出週数別割合、妊娠満 11 週以内妊娠届出推移、乳児死亡率、新生児死亡率、周産期死亡率、死産率、定期予防接種・接種率（BCG、ポリオ、三種混合、麻疹・風疹、日本脳炎）

◆ 各市担当部署からの情報収集・聞き取り調査

【目的】

- ・各市の健康づくり事業等の状況や課題を保健所が共有し、市に対する今後の対策に反映する。
- ・生活習慣病対策等を中心とする地域診断や評価のための圏域における機能的・継続的な実施体制を検討する。

【調査先】

圏域内6市の健康づくり事業担当者、特定健診・特定保健指導事業担当者等

【項目】

がん検診や特定健診・特定保健指導事業等の状況、各種データ管理の現状と課題、健康プロフィールシートに関すること、保健所への要望等

【結果】

地域全体の健康課題を明らかにするために必要な保健衛生統計データの共有に係る各市の庁内連携について、統計管理部署の違いやシステム端末の整備状況、個人情報保護の問題、担当者のデータ活用意識等、多くの課題があることが分かった。

◆ 地域診断に関する勉強会

生活習慣病やがん対策等に関する各種健康指標及びデータについて理解を深めるため、健康プロフィールシートを活用した地域診断に関する勉強会を実施した。

【対象者】 圏域内6市健康主管課等の保健師、栄養士、事務、保健所職員等

【実績】

実施日		参加数	内容
21年度	9月9日	19人	・外部講師による講義「データの見方と分析」 ・健康プロフィールシートについて意見交換
	1月27日	29人	・健康プロフィールシート更新報告会 最終更新データの確認及び代表2市による発表報告
22年度	9月10日	20人	・外部講師による講義 「地域診断のためのデータ活用とその見方」 「がん検診の事業評価と指標～精度管理指標の解釈～」 ・意見交換
	2月7日	18人	・講義(所内講師) 「地域診断のための情報の入手方法と統計資料の使い方」 ・グループ意見交換、発表 「22年度版健康プロフィールシート～皆でデータを見てみよう～」 ・総括コメント・講義(外部講師) 「22年度版シートのデータから」
	3月10日	28人	「健康プロフィールシート発表報告会」 ～地域の健康状態を知って施策に活かすために～ ・6市からの報告「各市健康プロフィールシートより」 ・保健所からの報告「圏域版・健康プロフィールシート」 ・意見交換

～ 勉強会参加者の感想 ～

- 他市とのデータ比較で自分の市の状況が把握できる
- 事業や地域課題を見つけられ、日々の業務の参考にしている
- 各市シートのデータの違いを見ながら、その場で他市担当者に事業の実施状況や工夫していること等を直接確認できるので良い

◆ 健康教育・普及啓発用資料の整備及びホームページの充実

保健所が保有する健康教育・普及啓発用教材や資料の内容を再確認・整理した。

また、圏域の人口動態や保健・医療・福祉等のデータをとりまとめた「保健医療福祉データ集」の活用を促進するため、保健所のホームページに掲載した。

◀ 評価・まとめ ▶

- 本事業の効果として、シートのデータや分析結果を効果的に活用した事業評価や事業展開・改善が行われる等、各市の取組に反映させることにつながった。
- 「各市健康プロフィールシート」は毎年各市ごとに作成担当者を選任して協働でデータの更新を行い、今後も継続していく方針は圏域内の共通認識となった。また、平成 22 年度に完成した「圏域版シート」は圏域集計のほか新たな健康指標を追加して作成したが、項目精査や見直しは今後も引き続き行っていく必要がある。
- 勉強会はシートの活用による地域診断と事業評価を併せて考えられるよう、関連事業と連動させて実施したことにより、各市の事業担当者同士が直接情報交換できる場として有用なものとなった。今後も継続して支援できるよう圏域研修等の機会も捉えながら効果的に企画・実施していく。
- 各市が健康プロフィールシートを作成する際の基礎となる「保健医療福祉データ集」と保健所が保有する健康教育・普及啓発用資料を整備し、ホームページに掲載することで、各関係機関からの活用が随時みられるようになりつつある。
- 圏域全体として見るとデータ分析はまだ十分であるとは言えないが、各市の地域診断力は徐々に向上しつつある。今後も引き続きシートの項目を精査しながら圏域の地域診断を行ってデータを取りまとめ、また、健康教育・普及啓発用資料及び保健医療福祉データ集の広報周知と併せて保健所の健康情報センター機能を充実強化していく必要がある。

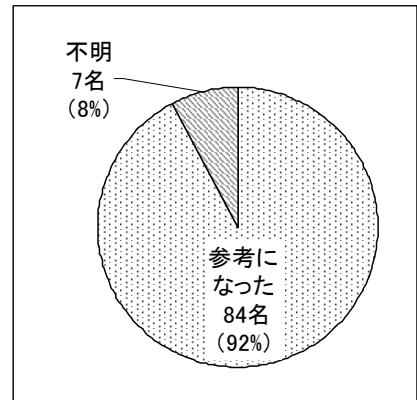
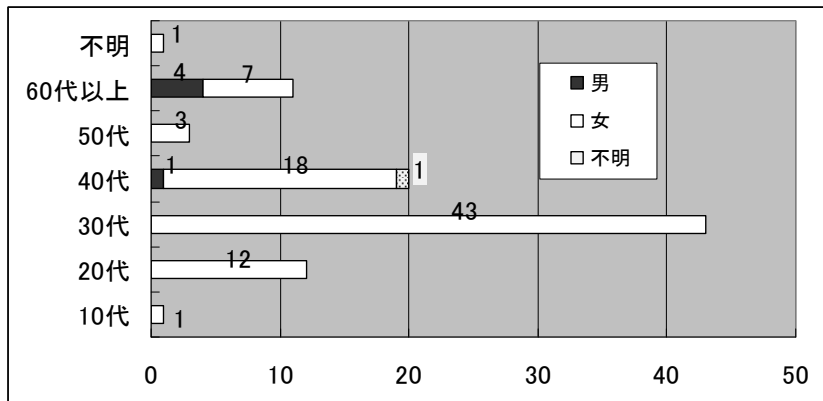


消費者の意識調査に基づく食中毒予防の取り組み～生食肉による食中毒の防止～	
北多摩南部保健医療圏	
実施年度	開始 平成 21年度、 終了 平成 22年度
背景	近年、レバ刺しや鳥わさなど食肉の生食または生に近い調理品が原因でカンピロバクターや腸管出血性大腸菌O157食中毒が増加傾向にある。特に、抵抗力の弱い幼児がレバ刺し等を食べて重症化した事例も報告されている。平成20年度、一般消費者を対象にアンケート調査を実施したところ、48%の人が生肉料理を食べたことがあり、そのうち37%が子供にも食べさせるとの回答があった。また、「生で食べられるぐらい鮮度が良ければ安全である」「生のほうが栄養は損なわれない」など、消費者の誤解もある。
目標	消費者がレバ刺し等の食肉の生食の危険性を理解し、食べることを控えるよう、より効果的な情報提供の方法を検討し、普及啓発事業を展開する。 食品事業者に対しては、講習会等の場で食肉の汚染情報等を周知して、安全な食品を提供する責務を呼びかけ、食中毒の低減を図る。
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 普及啓発媒体の作成 リーフレット15,000部、ポスター1,000部、ミニ講習会用紙芝居3セット、クリアファイル5,000部作成 普及啓発事業 <ol style="list-style-type: none"> リーフレット・ポスター等の配布 保育園・幼稚園・小中学校320校、都立公園6園、給食施設等140施設 公共ビジョン等（府中競馬場、競輪場、商業施設3ヶ所）での呼びかけ ミニ講習会の実施 乳幼児の保護者を対象とした保育園・各市保健センター等における出張ミニ講習会の実施（28回、585名） 街頭相談等の実施 食品衛生協会等と協同し、パネル掲示・リーフレット配布など4回実施 大学における食品衛生講習会の実施（4回、440名） 食品事業者を対象とする講演会の実施 テーマ：肉類の生食等による食中毒について 講師：国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部長 山本茂貴氏 消費者を対象とする調理講習会の開催 テーマ：お肉のことをもっと知ろう～安心でおいしい肉料理～ 講師：マノ料理学園園長 間野真理子氏 消費者アンケート等の実施 <ol style="list-style-type: none"> ミニ講習会アンケート（91名） 街頭相談アンケート（1,833名）
評価	<p>ミニ講習会における乳幼児の保護者を対象とするアンケートでは、食肉の生食による食中毒の危険性について、リーフレットを見る前から知っていたかどうかについて調査したところ、新鮮な肉でも生で食べると食中毒になることについて、8割近くの人が「知らなかった」あるいは「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」と回答した。アンケートの自由意見では、「子供には食べさせないようにしたい」「肉の生食について知らなかったことがわかった」などの感想が多く、普及啓発事業は、一定の効果があると考えられた。</p> <p>また、食品事業者を対象とする講習会では、「肉の生食の危険性が良くわかった。」などの意見がある一方、「生食を中止すると客が離れる。」などの意見もあった。</p> <p>食品事業者に対し、今後も引き続き監視指導の徹底を継続してゆくとともに、消費者に対しても、リーフレット、ホームページ、講習会等でアプローチして、普及啓発を進めていく必要がある。</p>
問い合わせ先	<p>多摩府中保健所 生活環境安全課 食品衛生第一係</p> <p>電話 042-362-2334</p> <p>ファクシミリ 042-360-2144</p> <p>E-mail S0200167/S/Tokyo@section.metro.tokyo.jp</p>

ミニ講習会アンケート結果（概要）

1 調査方法

平成 22 年 6 月から平成 23 年 3 月にかけて、管内の市が主催する幼児食教室や保育園懇談会に出向き、10 分程度のミニ講習会を行った。28 回 585 名を対象に実施し、家庭での食中毒予防及び食肉の生食の危険性について説明するとともにリーフレットを配布した。12 月以降実施した対象者には、アンケートにより食肉の生食に関する意識や危険性の認知度等を調査し、91 名から回答が得られた。（図 1）



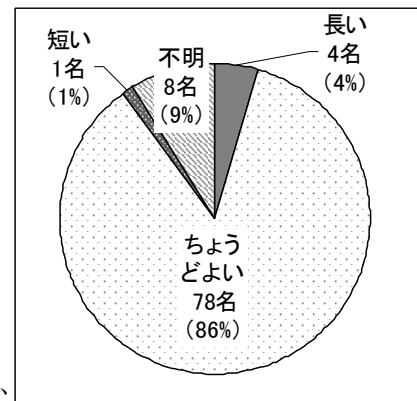
2 アンケート調査結果

(1) ミニ講習会について

内容について、「参考になった」84名（92%）、「不明」7名（8%）であり、「参考にならなかった」と回答した人はいなかった。

10分程度の時間について、「長い」4名（4%）、「ちょうどよい」78名（86%）、「短い」1名（1%）、「不明」8名（9%）であった。

（図 2-1, 2-2）

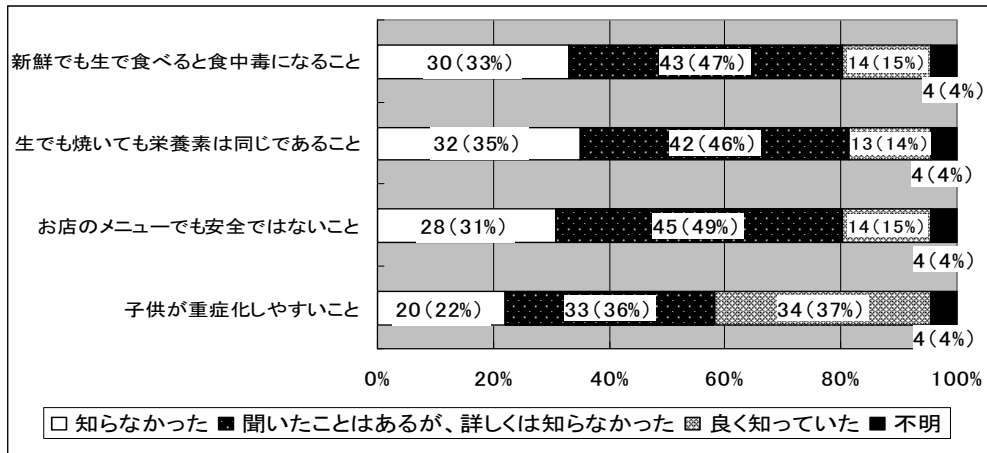


(2) 食肉の生食の実態

直近3ヶ月に食肉を生で食べたことがある人は18名（20%）で、これまでに、子供に食肉を生で食べさせたことのある人は5名（5%）であった。

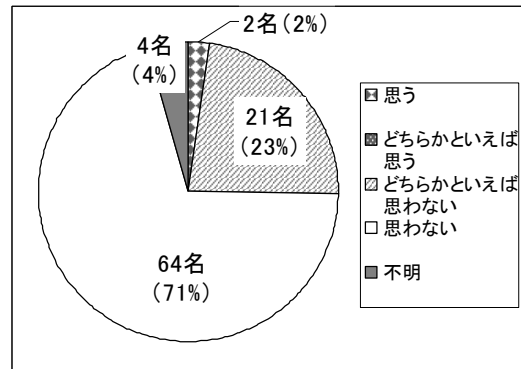
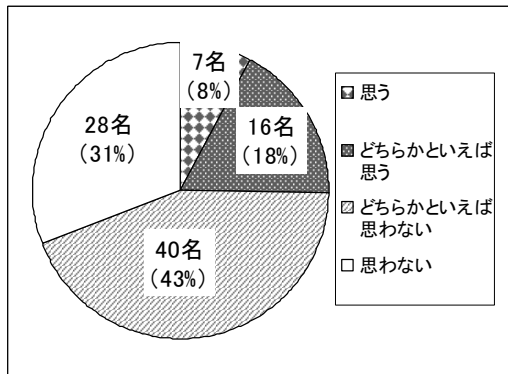
(3) 食肉の生食の危険性等の周知率

食肉の生食による食中毒の危険性などについてリーフレットを見る前から知っていたかどうかについて調査したところ、新鮮な肉でも生で食べると食中毒になることについては、「知らなかった」30名（33%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」43名（47%）、「よく知っていた」14名（15%）であった。生でも焼いても栄養素は同じであることについては、「知らなかった」32名（35%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」42名（46%）、「よく知っていた」13名（14%）。お店のメニューでも安全ではないことについては、「知らなかった」28名（31%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」45名（49%）、「よく知っていた」14名（15%）であった。また、子供は重症化しやすいことについては、「知らなかった」20名（22%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」33名（36%）、「よく知っていた」34名（37%）であった。（図 3）



(4) ミニ講習会及びリーフレットの効果について

リーフレットで食肉の生食による食中毒のリスクを見てもらった後、今後、食肉を生で食べようと思うか等について調査した。結果は今後も食べようと「思う」が 7 名 (8%)、「どちらかといえば思う」が 16 名 (18%)、「どちらかといえば思わない」が 40 名 (43%)、「思わない」が 28 名 (31%) であった。また、子どもに食肉を生で食べさせようと思うかどうかを聞いたところ、「思う」が 2 名 (2%)、「どちらかといえば思わない」が 21 名 (23%)、「思わない」が 64 名 (71%)、「不明」が 4 名 (4%) であった (図 4-1, 2)



(5) 今後、食肉を生で食べるリスクを伝えようと思うかどうか

今後、食肉を生で食べようとしている家族や友人に、食中毒になる可能性があることを伝えようと思うかを聞いたところ、「思う」が 28 名 (31%)、「どちらかといえば思う」が 49 名 (54%) と、合計して 85% の人が家族や友人にリスクを伝えると回答した。

3 自由意見

アンケートに自由意見欄を設けたところ、17 名から回答が得られた。「肉を切った包丁やまな板はすぐ洗っていたが消毒まではしていなかった」、「とても役に立った。肉の生食に関する誤解がとけた」、「今まで以上に肉、魚はしっかり加熱しようと思った」、「焼肉屋によく行くが、子供の手が届かないよう配慮したい」、「肉の生食について知らなかったことがわかり良かった」などの感想が多く、ミニ講習会及びリーフレットは一定の効果があると考えられた。また、「義父母へ、子どもへ半生の肉を与えないで欲しいと言い易い様に、症例等をまとめた冊子を作って欲しい」との要望もあった。

一方、「危険性は充分理解できたが、レバ刺しは大好きなので数年に 1 回くらい食べたい」、「生で食べる事の危険性を感じていたが、好きなのでやめられない」「生肉が危険だとわかっていても、すでにその味を知っていたら、時々食べたくなるし、実際焼肉店などでは人気の定番メニューになっていると思う」などの意見もあり、愛好者への普及啓発は困難であることが示唆された。

街頭相談アンケート結果（概要）

食肉の生食の実態及び知識等を把握するため、東京都食品衛生協会が設置した食品衛生街頭相談所において、来所者へのアンケート調査を実施した。

1 調査日時及び場所

- (1) 平成 22 年 8 月 6 日 大國魂神社（府中市）
- (2) 平成 22 年 9 月 29 日 狛江市あいとぴあセンター（狛江市）
- (3) 平成 22 年 10 月 16, 17 日 東京都立小金井公園（小金井市）
- (4) 平成 22 年 11 月 1 日 コピス吉祥寺前路上（武蔵野市）
- (5) 平成 22 年 11 月 6 日 東京多摩青果跡地（三鷹市）

2 調査対象

(1) 回答者の性別

性別	男性	女性	無回答	計
回答者数	368	1,352	113	1,833
%	20	74	6	100

(2) 回答者の年代

年齢	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答
回答者数	90	86	302	227	218	433	464	13
%	4.9	4.7	16.5	12.4	11.9	23.6	25.3	0.7

3 回答結果

- (1) 問 1 新鮮なお肉なら生で食べても大丈夫？ 正解 : 1 うそ
1 うそ : 1,159名 (63.2%)
 2 ほんと : 664名 (36.2%) 無回答 10名
- (2) 問 2 生肉料理は夏バテに効く？ 正解 : 1 うそ
1 うそ : 1,307名 (71.3%)
 2 ほんと : 515名 (28.1%) 無回答 11名
- (3) 問 3 お店のメニューにある生肉料理は安全？ 正解 : 1 うそ
1 うそ : 1,206名 (65.8%)
 2 ほんと : 610名 (33.3%) 無回答 17名
- (4) 問 4 生肉料理による食中毒で死ぬこともある？ 正解 : 2 ほんと
 1 うそ : 284名 (15.5%)
2 ほんと : 1,534名 (83.7%) 無回答 15名
- (5) 問 5 この3ヶ月間に鶏わさ、ユッケ、レバ刺しなどの生肉料理を食べたことがありますか？
 1 食べた : 316名 (17.2%)
 2 食べない : 1,510名 (82.4%) 無回答 7名

(6) 自由意見等

「ユッケは新鮮なら大丈夫だと思う。」「ビールと一緒に食べれば殺菌されると思う。」などの意見のほか、「子どもには食べさせないようにしたい。」「家族も食べないように注意していく。」「今後もこうした情報を発信してほしい。」などの意見があった。

○ ミニ講習会の実施（福祉保健局ミニ通信より抜粋）

福祉保健局ミニ通信

第307号 2010.11.04
～ 東京都福祉保健局 作成～

☆保育園で保護者向けに生食肉による食中毒防止のための講習会を開催

10月23日、多摩府中保健所では、私立是政保育園（府中市是政）において、保護者向けの食品衛生講習会を開催しました。

当所では、平成21年度から、課題別地域保健医療推進プランにより、食肉の生食による食中毒防止のための普及啓発事業に取り組んでいます。中でも、20～30歳代の若い世代が生食肉を食べる頻度が高いとともに、子供が生食肉を食べ症状が重症化する事例があることから、小さな子供がいる世代への普及啓発が重要です。そこで、保育園の保育参観の場を借り、園児の保護者70名に対し、食肉の生食のリスクについて、紙芝居による説明を行いました。保護者や保育園職員からは、「子育てしていくうえで大切なことを聞くことができ勉強になった。」「定期的に同様の機会を設けてほしい。」「等の意見が寄せられました。今後引き続き、管内の保育園や幼児食教室等において、小さな子供がいる世代への普及啓発を図っていきます。

【多摩府中保健所】



○ リーフレット、クリアファイルの作成

生肉料理 3つの誤解!

新鮮なお肉だから安全 = 鮮度は関係ない!

生で食べたほうが生肉はスタミナがつく = 焼いても同じ!

お店のメニューなら安心 = 安全ではない!


特にお子さんに生肉料理はダメ!

食中毒を予防するためには...

リーフレット 生肉料理 3つの誤解

「もっと焼いた方がよくない? ウチら世代でも食中毒ってかかるらしいよ!」

「おー、解さ、カンベンしてくれなよ」



普及啓発用クリアファイル

地域で取り組む食育の推進～「食育月間」を利用した普及啓発の新たな試み～	
北多摩南部保健医療圏	
実施年度	開始 平成20年度、 終了 平成22年度
背景	<p>食習慣の改善意欲が低く、食育の認知度も低い中で、肥満ややせの割合など改善すべき状況は拡大している。生活習慣病予防の観点から市民が自らの健康について意識し、自発的に食育を実践できる食環境の整備が必要とされている。</p> <p>(1)平成17年国民健康・栄養調査から、20年前、10年前と比べ、増加の一途をたどる男性の肥満、一方で20～30歳代女性のやせは2割を占める。</p> <p>(2)同じく17年国民健康・栄養調査から食習慣の改善を希望するかの問いに51.5%の者が「いいえ」と回答している。</p> <p>(3)平成19年度に管内でアンケート調査をしたところ、食育の認知度は3.0%で内閣府調査の3.8%を下回った。</p>
目標	<p>1 地域住民の食習慣に直接影響を与えることができる事業者等との連携を強化することにより、食育の重要性を理解してもらい、普及啓発の取組を拡大し、個々の事業者の取組を地域全体のものへと発展させる。</p> <p>2 普及啓発の推進を通じ、市民が自発的に食育を実践する意識と意欲が醸成される食環境整備を推進する。</p>
事業内容	<p>【全体概要】</p> <p>(1)食育に関する地域連携づくり</p> <p>(2)普及啓発媒体の作成</p> <p>(3)普及啓発活動</p> <p>(4)調査等</p> <p>【平成20年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育推進会議の開催 普及啓発媒体（ポスター、ステッカー）の作成、配布 都民、事業者を対象としたアンケート調査の実施 イベントの参加、広報媒体を活用した普及啓発 <p>【平成21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育推進会議の開催 食育月間（6月）に合わせた食育キャンペーンの実施（各イベントへの参加等） 食育講座の実施 都民、事業者を対象としたアンケート調査の実施 <p>【平成22年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育推進会議の開催 若い世代への食育の推進 「食べよう野菜350（さんごーまる）」の取組の推進 食育月間（6月）に合わせた食育キャンペーンの実施（各イベントへの参加等） 食育講座の実施 都民、事業者を対象としたアンケート調査の実施
評価	<p>1 管内6市や関係団体を委員とした食育推進会議が基盤となって効果的な食育推進方法を検討したことにより、食育月間（6月）を中心に食育キャンペーンや食育講座等の普及啓発の場を拡充することができた。</p> <p>2 各種講座やイベントを各市・団体と連携して実施したことにより、都民や事業者に対して食育の重要性について考える契機とすることができた。</p>
問い合わせ先	<p>多摩府中保健所 生活環境安全課 保健栄養係</p> <p>電話 042-362-2334（418・419）</p> <p>ファクシミリ 042-360-2144</p> <p>E-mail S0000348@section.metro.tokyo.jp</p>

平成22年度課題別保健医療推進プラン
 地域で取り組む食育の推進 ～「食育月間」を利用した普及啓発の新たな試み～

1 普及啓発活動

管内6市の各地で様々な普及啓発活動を行った。

(1) 「食育月間」中のキャンペーン活動

	月 日	内 容	会 場	共催・後援等の 機関・団体	参加者
メイン会場	平成22年 6月23日(水) 6月24日(木)	食育キャンペーン 各団体の食育の取組の展示及びステージでの発表 講演、調理実演・試食、食育紙芝居、相談等の実施	専門店街 フォーリス	管内6市、学校、 農業協同組合、 食品衛生協会、 保育所、企業、 地域活動栄養士 会等	1,819名
サテライト会場	6月1日(火)	給食施設従事者向け講演会 講演:地域での食育推進 講師:東京農業大学国際食料情報学部 准教授 上岡 美保 氏	府中グリー ンプラ ザ	—	61名
	6月5日(土)	調布市環境フェアにおける食育の普及 パネル展示、地産地消クイズなどによる 普及啓発	調布市役 所前広場	調布市	600名 (環境フェア全体 2,952名)
	6月17日(水)	みんなの栄養展 実物展示(かしこく選ぼう外食編)栄養ク イズ(栄養素の含有量当て)、カロリー消 費の日安展示、栄養・健康相談、パネル 展示	専門店街 フォーリス	府中・小金井施 設給食研究会	751名
	6月19日(土)	小金井市食育月間事業 「 地場野菜を使ったスイーツコンペティ ション 」 製作者によるレシピ発表、試食、参加者投票	小金井市 福祉会館	小金井市健康課	52名
	6月29日(火)	プレママ食育講座 「たべよう野菜350!(さんごーまる) ～楽しく、おいしく、カンタンに!～ 第1部 講話と調理デモンストレーション	武蔵野市 立保健セ ンター	武蔵野市、 三鷹地域活動栄 養士会	武蔵野市在住 妊婦11名
	6月30日(水)	講話:毎日の野菜メニューで葉酸を! 講師:三鷹地域活動栄養士会長 (野菜ソムリエ協会講師) 管理栄養士 葭谷 麻利子 氏 第2部 試食と交流会 講話:食肉の生食による食中毒防止に ついて	三鷹駅前 コミュニテ ィセンター	三鷹市、 三鷹地域活動栄 養士会	三鷹市在住 妊婦9名

(2) 食育月間以外の食育講座等実施状況

月 日	内 容	会 場	共催・後援等の 機関・団体	対 象	参加者
平成22年 5月25日(火)	子供食育講座 作ってた べよう! 絵本のおよみかせ、調理 実習(茹でそらまめ 3色 ロールサンドイッチ)、 講師 狛江栄養士会 金子 育子氏	狛江市 根川学童保育所	狛江市健康支援課 狛江地域活動栄養士会	狛江市根川学 童保育所利用 児童	26名
9月29日(水)	みんなの栄養展 (狛江市 健康課 狛江健康まつり にて開催) 上手に選ぶコンビニ食 品～今日のごはんは何に しよう パネル展示、資料配布、 味噌汁試飲 クイズ	狛江 あいとぴあセンター	狛江調布施設 給食研究会	一般市民	201名
11月7日(日)	みんなの栄養展 (慈恵医科大学第三病院 ホスピタルフェアにて開 催) 上手に選ぶコンビニ食 品～今日のごはんは何に しよう パネル展示、資料配布、 味噌汁試飲 クイズ	東京慈恵会 医科大学付属 第三病院	狛江調布施設 給食研究会	一般市民	220名
10月20日(水)	大学生への食育普及啓発 活動 たべよう野菜350! 野菜 摂取について普及啓発	東京学芸大学	東京学芸大学 学園祭実行委員会	東京学芸大学 学生	150名
10月29日(金)	幼稚園児への食育実演 (管理栄養士学生実習として) おやつを上手に食べて元 気になろう(紙芝居とペー プサート)	府中市立 矢崎幼稚園	—	府中市立 矢崎幼稚園児	90名
11月6日(土)	みんなの栄養展 (三鷹市農業まつりにて開催) 体脂肪測定、血圧測定、 栄養相談、資料配布、食 育アンケート等	三鷹市役所東側 大屋根広場	三鷹武蔵野施設 給食研究会	一般市民	110名
11月14日(日)	府中市農業まつりにおけ る食育の普及啓発 たべよう野菜350! パネル展示・野菜クイズ 府中市食育推進計画 (概要版)の配布と周知	府中市郷土の森	府中市健康推進課	一般市民	404名 (11/14 全体来 場者数 9000名)
11月22日(月)	子供食育講座 作ってた べよう! 栄養のはなし、 調理実習(すいとん、おに ぎり) 講師 狛江栄養士会 栄 養士 中川 路子 氏	狛江市猪方前原 学童保育所	狛江市健康支援課 狛江栄養士会	猪方前原学童 保育所利用児 童	18名

月 日	内 容	会 場	共催・後援等の 機関・団体	対 象	参加者
11月30日(火)	健康づくり調理師研修会 たべよう野菜350 野菜 たっぷり冬を乗り切る簡単 菜膳 講師 菜膳研究課 東京 有明医療大学 非常勤講師 和田 暁 氏	ルミエール府中	—	飲食店、給食施設 の調理従事者	26名
12月8日(水)	大学生協食生活相談会に おける食育の普及啓発 体組成測定、野菜 350gあ て計量体験、食育クイズ、 食育アンケート等	東京農工大 小金井キャンパス	東京農工大大学生協	東京農工大学生	125名
平成23年 2月9日(水)	健康づくり調理師研修会 たべよう野菜350 野菜 を使って 魅せる飾り切 りのコツ 講師 武蔵野調理師専門学校 中村 昌次 氏	武蔵野市民会館	—	飲食店、 給食施設の 調理従事者	22名
3月8日(火)	プロから学ぶ食品講座 作ってみよう！マイソーセージ ●作り方指導 講師「マイスタームラカミ」 店主 村上 繁 氏 ●ソーセージ料理の講話 と試食 講師 二葉栄養専門学校 調理師学科 科長 萩原 史朗 氏	二葉栄養専門学校	武蔵野食品衛生協会	一般市民	58名

(3) 普及啓発媒体の作成と配布

普及啓発媒体	発行数	配布先等
ポスター	3000 枚	食品衛生協会会員施設、管内 6 市及び関係部署、農業協同組合、給食施設、小・中学校等
食育ミニリーフレット	1000 枚	給食施設等

3 調査の実施

(1) 都民を対象としたアンケート調査

地域住民の食育や食育月間に関する認知度を把握するため、既存事業の場を活用してアンケート調査を実施した。(実施時期 6 月～11 月)

栄養展等への来場者を対象とした調査では、575 名中「食育月間を知っている」と回答した人は 39.5% であり、本事業開始時(平成20年)の 2.8%より知っていると答えた人の割合は増加した。

(2) 給食施設を対象としたアンケート調査

管内にある給食施設を対象に食育の実施状況についてアンケートを実施した。回答した 396 施設のうち約 87%の施設で食育が実施されていた。

平成22年度食育推進の取組

多摩府中保健所では 地域の関係機関と協働しながら
食育についての普及啓発を行っています

6月の食育月間に
食育キャンペーンを実施!



食育スローガン

「三食たべて笑顔の毎日」

さんごーまる
「たべよう野菜350！」

各市で食育講座、イベントを実施!

メイン
会場

食育キャンペーン
府中フォーリスにて



普及啓発ポスターの作成



府中市

大学生協食生活相談会での
普及啓発



野菜350g
計量体験!

東京農工大学にて

武蔵野市
三鷹市

プレママ食育講座

調理デモと講話

食べよう野菜350! 楽しく、おいしく、簡単に!

講師 三鷹地域活動
栄養士会会長
葎谷 麻利子氏



狛江市

子ども食育講座「作ってたべよう！」

茹でソラマメ・3食ロールサンドイッチ

協力 狛江栄養士会

